|  |
| --- |
| 同意書  【胃がん検診の目的と方法】  胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、早く治療する目的で行われています。  その方法には、バリウムを用いる方法(胃X線撮影)と内視鏡を用いる方法(胃内視鏡検査)があり、いずれもその効果が証明されています。また、両者の方法には良いところと悪いところがあります。  【胃内視鏡検査の方法】  口（もしくは鼻）から胃内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察し、病気を探します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ(生検）、細胞の検査を行うことがあります。 また、色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。  なお、**生検が行われた場合は、生検については保険診療として別途請求があります**。当日は健康保険証を持参してください。また、**生検により粘膜に傷ができますので、検査後当日の食事はやわらかい消化の良いものを食べてください。過激な運動、長湯、旅行なども避けてください**。  **注意：咽頭、鼻腔などに重篤な疾患がある方、呼吸不全のある方、急性心筋梗塞や、重篤な不整脈などの心疾患のある方、明らかな出血傾向やその疑いのある方、高血圧治療中の方、ｱﾚﾙｷﾞｰ体質の方は、検査前に医師に申し出てください。**  【偶発症（検査によってまれに起こる不都合な症状）】  偶発症が発生する頻度は、胃内視鏡検診では10万件に87件と全国調査により報告されています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。現在、胃内視鏡検診による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。  **胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。**  **1）胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔(穴があくこと）**  **2）生検により出血、穿孔**  **3）薬剤によるアレルギー(呼吸困難、血圧低下など）**  **4）検査前からあった疾患の悪化(症状の出ていなかった疾患も含む）**  **5）鼻から内視鏡を入れた場合は、鼻痛、鼻出血**  なお、当施設では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。  【検査後の注意事項】  ・検査後の１時間程度は水分補給や食事は控えてください。  **・検査終了後に何らかの異変がある場合には、検査医に相談し、その指示をあおいで下さい。**  平成　　　年　　　月　　　日　　　　　　　　　　　　説明医師名  上記の事項について、説明を受け、十分に理解しましたので、その実施に同意いたします。  【生検の実施について】  　　異常がある場合には、病変の一部をつまみ、細胞の検査を行うことがあります。  　　生検を実施しても構いませんか。　□生検を希望する。　　　□生検は希望しない。  平成　　　年　　　月　　　日  受診者署名    受診者代理署名　　　　　　　　　　　　　　（続柄） |